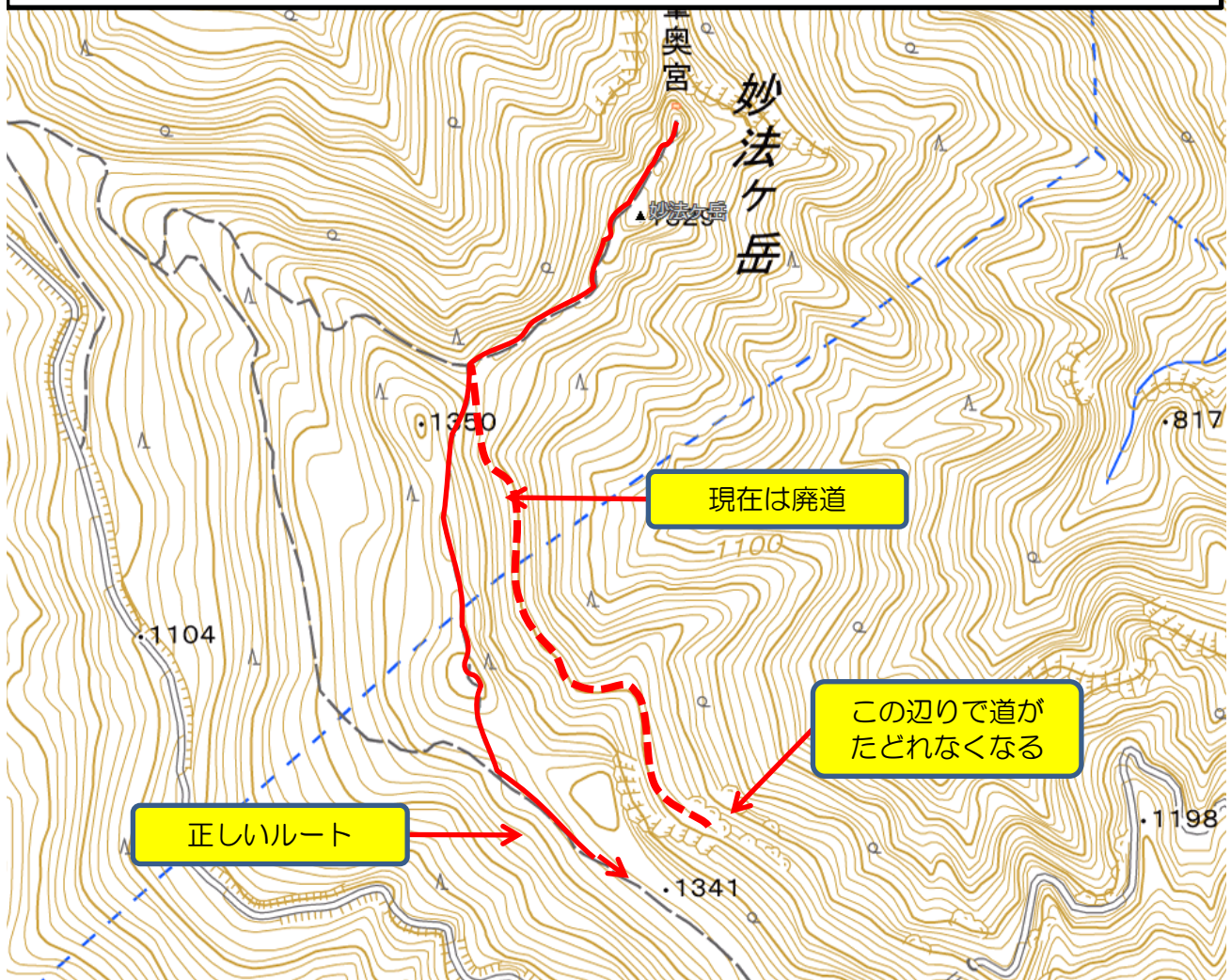


## 妙法ヶ岳遭難(2006年10月)

他の仲間と計画を変更し別行動で下山。その途中で道迷い滑落し骨盤骨折。24日間ほとんど飲まず食わずの状態です遭難後24日ぶりに救出された。



## 解説

遭難後24日ぶりに発見された。ほとんど飲まず食わずの状態、発見時には意識がなく、心肺も微弱な活動状態で、体温も22度程度まで下がっていた。人間としては考えにくい、冬眠に近い状態にあったのではないかという専門家もいる。気候が暑すぎもせず、寒すぎもしなかった10月の気候も、遭難者の生還に一役買っていたと思われる。

遭難原因は、崖からの転落による骨盤骨折であるが、その発端は道迷いだった。計画を変更して他の仲間と別行動で下山したことも要因の一つと思われる。

また、登山道は現在廃道になっており、当時も途中で道がたどれなくなっていたことも要因に挙げられる。

①単独行。②道が廃道で分かりづらい。③滑落し負傷。④救助の連絡方法がない。⑤食料がない。という条件があったにもかかわらず、24日ぶりに救助されたことは、幸運であった。